

氏 名	倉持 泉
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	乙第 1459 号
学位授与の日付	令和 2 年 6 月 19 日
学位授与の要件	学位規則第 3 条第 1 項第 4 号に該当
学位申請論文タイトル及び掲載誌	
The self-stigma of patients with epilepsy in Japan : a qualitative approach	
てんかん患者のセルフスティグマに関する質的研究	
Epilepsy & Behavior 2020 年 2 月 5 日 掲載受理	
学位審査委員（主査）教授 松尾 幸治	
（副査）教授 大西 秀樹、教授 山内 秀雄、准教授 菅 理江	

論文内容の要約（要旨）

【目的】

てんかんを含む慢性疾患において、スティグマは一般的な精神医学的問題である。スティグマ形成と対処の双方を明らかにすることは、患者の包括的な理解と精神科的支援を行う上で有用な知見となる。本研究は患者のスティグマ認知の質と程度、および知覚されたスティグマに対して患者がどのように対処しているかを明らかにすることを目的とした。

【方法】

2016 年 10～12 月の間、てんかんの診断で外来通院中の 20～65 歳の患者を対象とした。同意を得られた 20 例に対し、てんかんに対する認知と感情、それらへの対処法などに関する半構造化面接を行った。また、2017 年 ILAE てんかん分類によるてんかん病型、罹病期間、発作頻度、性別、年齢、配偶者、同居者、職業の有無を、診療録より情報収集した。

分析対象 20 例の発語データからランダムに抽出した 5 例のデータを分析し、その後は 1 例ずつランダムに選出してデータを追加した。10 例の逐語データの分析を行った時点で理論的飽和に達した。逐語データに関しては、その現象を最も適切に表現する言葉を用いてコード（概念）を生成し、関係性がある複数のコードをまとめ、カテゴリを生成した。この研究は国立精神・神経医療研究センター倫理審査委員会によって承認され（承認番号 A2015-132）実施した。

【結果】

患者には、てんかんだから能力がないと思われるのではないか、精神病という、疾患・診断に関するネガティブな認知だけではなく、てんかん発作は泡をふいて倒れるもの、てんかん発作を見た人は気持ち悪いだろうなどという発作に関するネガティブな認知が認められた。また、てんかんは遺伝するかもしれないので結婚・出産はできない、仕事ができない、肩身が狭いという一般的な自信の低下も認められた。

感情面では、てんかんという名前が嫌だというてんかんという疾患・診断に関するネガティブな感情、発作を見られるのはつらい、恥ずかしいというてんかん発作に関するネガティブな感情、精神科受診に対する嫌悪感などが認められた。

行動面においてはてんかん発作を見られるのが嫌で、人とのかわわりを避けているというもの

や、てんかんであることを言いにくいというものを認めた。また、てんかんであることを隠したい、人前で薬を飲みたくないという行動も認められた。

【結論】

てんかん患者のセルフスティグマは認知、行動、感情に大きく分類でき、てんかんのために嫌なことを考えるようになった、人とのかかわりを避けているという行動面に関する消極的な変化が、感情的な要素として全般的な自信の低下を認め、病気のために多くのことを諦めたということから、認知的な要素のこれまでの人生のネガティブな評価が認められた。認知、行動、感情それぞれが影響し合い、時にスティグマを強め合っていることが示唆された。今回の結果を元に、セルフスティグマ低減に向けた効果的介入方法を検討していきたい。